

教育センター研修だより



南砺市教育センター

小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会④

下記の通り、南砺市小中学校の先生方を対象に、小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会を実施しました。

- | | |
|-------|--|
| 1 日時 | 平成30年8月23日（木） 15:00～16:45 |
| 2 会場 | 南砺市役所 井波庁舎 |
| 3 講師 | 南砺市立利賀小学校 校長 新明 春生 先生 |
| 4 参加者 | 小学校教諭 13名 |
| 5 内容 | 「なんと イングリッシュチャレンジ」での児童の成長
～これだけは押さえておきたい指導の要～ |



【研修会の内容】

- 1 **なんとイングリッシュチャレンジ（なんチャレ）** [8月6日（月）～10日（金）9:00～11:35]
南砺市内の名所や祭り、名産品、自慢のもの等、自分の町や南砺のよさについて、英語で紹介する活動を通して、英語を楽しみ、進んでコミュニケーションする力を伸ばすことを目指した、今年度初めての取組であった。市内から、24名の5・6年生児童が参加した。

「なんとイングリッシュチャレンジ」五日間の活動



8/6（月）

1 **英語のゲーム・自己紹介**
英語を使ってみよう



8/7（火）

2 **市内見学**
市内を巡りながら、英会話を楽しもう



8/8（水）

3 **いろんな英語表現**
南砺のステキを英語で表現してみよう



8/9（木）

4 **プレゼン発表練習**
英語でかっこよく伝える練習をしよう



8/10（金）

5 **プレゼン発表会**
英語で南砺のステキを伝えよう

さかのぼって構想する

「なんとイングリッシュチャレンジ」の企画・実践過程は、外国語を指導する際のポイントと同じです。

指導教員 新明春生校長先生（利賀小）伊豆多都子先生（井波小）多田佳子先生（福野中）横山 恵先生（福光南部小）
藤森一彰先生（福光中部小）中谷真由美先生（福光東部小）ジェーン アスマッドウ先生（城端小）ダニエル ギャロウエイ先生（井波小）

2 小学校外国語活動・外国語科の授業を支えるもの

(1) 単元の目標（最終時のゴール、児童の姿）を明確にする。⇒最終の姿を教師と児童が共有する

「なんとイングリッシュチャレンジ 1日目」では

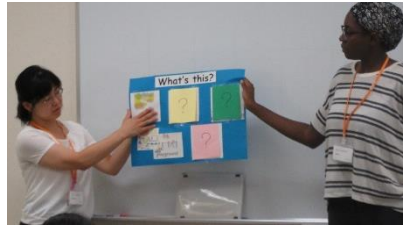
- ・「南砺のよさを」「10文以上で」国内の小学生や外国人に、「発信できるように」と提示した。
- ・ゴールの姿をイメージ、共有できるように、表現方法の例を複数紹介した。



写真で



文字やイラストを入れて



クイズで



実物を見せて

(2) 単元の目標に基づき、全体計画をバックワードデザインで作成する。

⇒ゴールから^{さかのぼ}遡る

(3) 単元の目標に基づき、コミュニケーション活動を明確にする。

⇒「伝えたい・知りたい」活動を行う

- ・コミュニケーションが成立するには、※インフォメーション・ギャップが必要である。 ※（「自分は知っているが、相手は知らない」という状況）



5日目の発表会の児童の様子

(4) コミュニケーション活動の前提となる慣れ親しみの活動を十分に行う。

⇒スモールステップで行う

- ① Classroom English を使う。
 - ・児童も英語を使おうとする気持ちが高まる。
- ② Demonstration でやり方を示す。
 - ・日本語での長い説明はしない。・英語使用率の向上を目指す。
- ③ ゲーム性・ポイント制を入れる。
 - ・偶然性（英語能力以外の要素）を盛り込む。
- ④ 真の情報を含んだ内容を盛り込む。
 - ・「自分の気持ち」等のインフォメーション・ギャップを入れる。



研修会では、ゲームを体験

(5) 教室内の人間関係を良好にする。⇒一人一人を大切に

- ① 自己開示できる雰囲気づくりをする。
- ② 自分が認められる（受け入れられる）雰囲気づくりをする。
（仲間外れを絶対につくらない、認めない。）
- ③ みんなで成し遂げようとする雰囲気づくりをする。



参加者の感想より

- ・外国語科の授業づくりについて原則、大切なことを教えていただいた。ALTの方におまかせで進めていることが多かったが、このような考え方で授業を計画していくとよいのだというものをしっかりと提示していただけて、とても充実した内容の研修だった。「なんチャレ」に参加した子供たちの姿から、外国語を楽しんでいる様子が伝わってきた。
- ・「基本的な人間関係づくりが大切であること」「授業の中で目標を明確にすること」「ゴールから単元を組み立てていくこと」が、大切であることを改めて学んだ。外国語活動に限らず、どの学習においても大切なことである。今後に生かしたい。
- ・実際に4人グループで実技をしたとき、ルールをグループで確認する時間をとることを学んだ。教師が日本語で補足するのではなく、友達同士で確かめ合うと、より安心してゲームに取り組めると感じた。子供の実態に合わせて、変化をもたせながら、ゲーム等を取り入れていきたい。
- ・「単元の終わりには、『3分で』『10文の』スピーチをする」といった具体的な数値を入れたゴールの目標をもつことも大切だと思った。